

長崎高教組新聞

発行
〒850-0013 長崎市川中丁2丁目2番5号
長崎高教組会館
長崎県高等学校教職員組合
☎ (095)-827-5882
FAX (095)-826-2976
編集責任者 大場 雅信
購読料 一部10円
組合員は組合費に含む
メールアドレス
naga-kks@fsinet.or.jp

県議会、国会へ意見書提出!

「長崎のゆたかな高校教育をめざす会」(事務局) 高教組の陳情を受け、全会一致で決定

7月11日、長崎県議会は「公立高校の授業料無償制の堅持と給付型奨学金の創設を求める意見書」を政府と国会に提出することを全会一致で決

定し、即日提出しました。これは、高教組が事務局を務めている「長崎のゆたかな高校教育をめざす会」が出していた陳情を受けてのもです。

高校授業料無償制の堅持を強く要望

意見書では、「高校無償化」に所得制限を導入しようという動きに対して「所得制限が導入されれば、高校生等の学びを

社会全体で支えるという制度の理念を大きく後退させるとともに、修学機会や負担の公平性などに影響、保護者や学校現



意見書提出の動議を可決した7月11日の県議会本会議

また、奨学金については、高等学校等奨学金は貸与型の奨学金であり、厳しい経済状況が続く中、奨学生にとっては、貸与終了後の返還が経済的・心理的に大きな不安となっており、将来において返還する見通しに不安を抱く生徒は、奨学金制度を活用することなく学業を断念してしまうことも危惧される」と指摘し、「国の責任において恒久的な財源を確保し、低所得者層の生徒に対する給付型奨学金を創設するよう要望する」としています。

意見書は、末尾に「仮に、授業料無償制に所得制限を導入する場合は、

拙速な導入は避けるよう併せて要望する」とあり、所得制限導入絶対反対とはなっていない。また、自民党議員も含めて全会一致での意見書提出という結果は、「高校無償化の維持・拡充」に型奨学金の創設などの私たちの要求が、だれも反対することができない、当たり前の要求である。これを改めて示していただきます。県議会の意見書提

実教部第36回定期大会開催

2級格付改善を求める交渉を継続する方針を確認!

実習教員部は7月13日、大村市コミュニティセンターで支部部長会と定期大会を開催し、今年度の運動方針を確立する

組合員拡大にむけて 実教部独自のリーフ作成を決定

定期大会では、2級格付の総括や組合員拡大に向け改善のとりくみをはじめとする昨年のとりくみを振り返り、討議の中で、昨年の2級格付改善の県教委交渉結果については、要求から見れば極めて不十分な到達点に終わったことや、若い組合員からは落胆の声もあったことなどを確認しつつ、「退職時の給与が事務長を上回らないようにする」という県教委の考え方を要請し、2級格付付け年齢を3歳改善させたこと、これまでのとりくみの成果

出という前進を力にして、教育全国署名をはじめとするとりくみをさらに発展させることが期待されています。



夏季闘争勝利7・25中央行動に 全国から2千人が参加



うことを確認しました。そして、引き続き改善を求めて交渉を続ける方針が決定されました。

組合員拡大にむけてのとりくみでは、実教部独自のリーフを作成し、その内容についての意見交換を行いました。また、免許取得のための認定講習の現状についても情報交換を行い、県教委に対して、実習免許のための認定講習の拡充を求めることや、認定講習について若い実習教員に周知するとりくみの必要性を確認しました。

2013年夏季闘争勝利7・25中央行動が全労連・国民春闘共闘・全労連公務部会他の主催で実施され、全国から2000人が参加し、長崎からは5人が参加しました。全教は集まった8万5000筆の「えがお署名」を文科省入口に積み上げ、国の責任による30人学級の前進や「高校無償化」への所得制限導入の撤廃、教育予算の大幅増による教育条件整備を力強く訴えました。午後からは、小雨が降



右：大村市コミセンで開かれた実教部第36回定期大会

右：大村市コミセンで開かれた実教部第36回定期大会

親愛なるあなたへ
全国の仲間の助け合い
総合共済を
お届けします

退職時には掛金が全額戻ります!
月々600円
結婚、出産などお祝い給付が魅力です!

毎月加入できます

全教共済

中、日比谷野外音楽堂での総決起集会が開催されました。その中では、全労働・全教・新婦人などの各団体が決意表明し、また、都議選・参院選で躍進した日本共産党の国会議員団から山下芳生参議員が要求実現と憲法改悪阻止のため協力・共同してたたかう決意をあいさつとともに表明しました。

その後、財務省前要求行動、銀座パレードに参加するとともに、文科省内で、全教と宮城、長野、和歌山、長崎の参加者として「えがお署名」を文科省担当官に手渡し、私たちの要求実現にむけて、文科省がしっかり取り組むことを要請しまし

定通部第24回定期大会

運動方針・役員体制等を確立

7月15日、長崎高教組定通部は高教組会館会議室で、第24回定期大会を開催しました。

11分會中8分會が出席、2分會からは委任状が提出され、大会は成立しました。濱本定通部長（大村定時）、小田執行副委員長（鳴滝通信）の

あいさつのもと、鳥山代議員（鳴滝夜間）の進行で、2012年度決算、2013年度役員承認、2013年度活動方針、2013年度予算について審議し、参加者の全員一致ですべての議案が可決されました。

運動方針・要求内容等について 活発な討論

活動方針の中で、鳴滝通信の富永代議員から「通信制の教職員が年々減っている。新課程になりリポート教材の新規作成もあり、忙しくなっている。方針にある大幅増員は現実的でないの、減らさない要求が現実的である。通信制では、離島加配が措置されている



▲高教組会館で開かれた定通部第24回定期大会

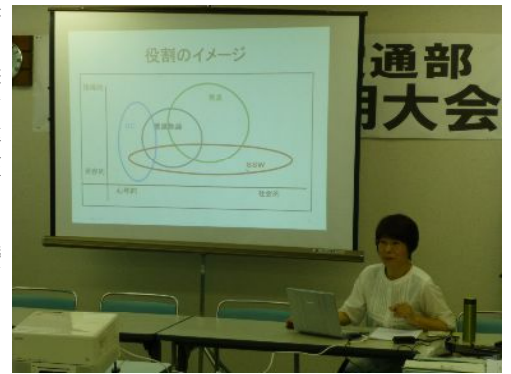
2013年度予算については、予算の規模は昨年より小さくなったこと、その中でも、専門部としての組織の強化・拡大のために、闘争費は昨年と同額の予算だったことなどが確認されました。その他、7月26日から大阪市で行われる全国定通部教育学習交流集會に大村定時から2人の生徒

午後「県教研 定通部分科会」を開催！

昨年に続き木村和子さん（長崎市SSW）を講師に招き、「スクールソーシャルワーカー（SSW）」についての学習会を行いました。

「SSW実践報告」現状と課題」と題した講演では、まずSSWの学校の役割、長崎県の現状、派遣申請から実際の対応までの基本的な内容、続いて実際の対応事例、最後に現在の課題についての講話がありました。

今年度の中国・四国・九州ブロック学習交流集會は11月2日、佐賀県で開催されます。長崎県から多くの参加が期待されています。みんなで佐賀に行って定通部の交流を深めましょう。



▲講演を行うスクールソーシャルワーカーの木村和子さん

が各校で決まっているが、実際SSWの代わりに務めるのは難しい。などの問題点が出され、高教組定通部県教委交渉の重要性がいっそう明らかになりました。

教育の課題を解決するために有効に活用でき、まだまだ私たちが知らない専門機関が多くあり、勉強不足を痛感する機会にもなりました。未組合員の参加もあり、大変有意義な学習会となりました。

調査報告・実践報告など 5本のレポートについて討議

学習会の後半は、次の5本のレポート報告を行いました。報告の内容を紹介します。

1. 「定通部調査報告」
（鳴滝夜間 今泉宏さん）
今泉さんのレポートは、定通部で毎年行っている、入試状況調査、進路状況調査、今年初めて行った臨時教員配置率調査の報告。「大村定時を除くと多くの夜間定時制が定員割れをしている」「入学者が10名をきった学校は存続の危機である」「その学校を必要としている生徒がいる以上、管理職とも協力して、存続させる努力が必要である」という意見が出されました。
2. 「事業所と教師の会（ETA）について」
（南相馬市でのボランティア活動について）
（いずれも、佐世保工業定時 江頭 清隆さん）
江頭さんのレポートでは、以前はほとんどの定時にあったと思われるETAが、佐工定、諫早定、大村定の3校になったことが分かりました。「佐工定では、生徒や卒業生が働いている職場の方に役員をお願いしているが、他の会員（事業所）からの会費納入が少ないため、役員の方に多く納めていただいている。その結果予算規模が小さくなってきている」ことが報告されました。江頭さんのもう一つのレポートは、東日本大震災以降、毎年夏と冬に東北でのボランティアに参加していることとの報告。今年の夏も直接南相馬市の小高区でのボランティアに参加すること。江頭先生を応援しましょう。
3. 「生徒会新聞を用いた生徒指導」
（鳴滝夜 鳥山隆弘さん）
鳥山さんのレポートでは、旧長崎高校時代から生徒会指導部職員によつて発行されている生徒会新聞「夕星（ゆうせい）」を通して見える学校の歴史、そして生徒へ語りかける新聞の重要性についての報告。「学校統合という歴史を経ながらも、33年前の校長の巻頭言が語る本校の存在意義は今でも変わることはない。このように当時の新聞を読むことで学校に根付いている歴史を確認することができた」と話されました。また、「生徒の感想を載せることによって、生徒の不安を安堵と期待へと昇華させている」「生徒会新聞が生徒たちに定時制でやっていけるという自信を与えている」ことも話されました。
4. 「定時制の生徒指導」
（諫早定時 馬場敦子さん）
馬場さんのレポートは、「定時制における生徒指導」についてまとめたレポート。「生徒の実態に応じた指導」とは、どのようなことか」を説明するため、多様な生徒を5つのグループに分類。そして、実情に応じたためのスキルとして具体例をあげて4つを紹介。どのスキルもほとんどの定時制ならば経験することであるが、その分析は明快。参加者一同がなるほどと納得する内容でした。



▲レポートについての討議の様子